

## 工学部 アセスメント・ポリシー

平成31年 1月11日

### (目的)

- (1) 工学部では「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために教学アセスメントを実施する。

### (実施体制)

- (2) 工学部の教学アセスメント実施責任者は、学部長とする。
- (3) 工学部の教学アセスメントは、工学部教育・キャリア企画室において実施する。

### (実施及び分析)

- (4) 工学部の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
- (5) 評価結果を参考とした教育改革の内容は、積極的に公表する。
- (6) 教学データの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護につとめる。

## 工学部 応用理工系学科 アセスメント・チェックリスト

## 工学部応用理工系学科の学位授与水準(DP)

DP1	科学技術の多様な展開に対応できる、技術者・研究者として必要な基礎力と広い視野
DP2	科学技術と社会との関係に関する倫理感と判断能力
DP3	科学・技術的実践の場における安全知識とリスク回避能力
DP4	現象を正確に観察し、問題の所在を分析する能力
DP5	論理的な思考に基づく科学的考察力、複眼的視点からの批判能力
DP6	科学技術に関わる国際的な情報を収集し分析する能力、および研究成果を発信する能力
DP7	卒業論文研究を通じて修得する、技術者・研究者として必要な洞察力・発想力・構想力、計算・実験技術の知識、研究計画の立案・遂行能力、作文・プレゼンテーションの技術
DP8	実験・実習でのグループ活動を通じて修得するチームワーク形成能力とリーダーシップ
DP9	自国および他国の文化や価値観に対する造詣
DP10	国際社会に対応できる教養と語学力

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	7月、1月	毎年	2～4年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Webアンケートシステム	学生	結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	工学部
2	成績評価	4月、9月	毎年	2～4年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	応用理工系学科 科学生指導関係教員	成績をもとに履修指導を行う。	工学部 応用理工系学科
3	3年次学修状況調査	10～12月	毎年	3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改革の参考とする。	総合IR本部
4	卒業生調査 (OB/OG調査)	9～1月	毎年	卒業後5,10,15年目の 卒業生	・大学教育の有用性と現在の状況	Webアンケートシステム	卒業生	教職員に開示してカリキュラム改革の参考とする。	総合IR本部
5	企業調査 (就職先調査)	1～3月	3年に 1回	卒業生の就職先	・企業等からのアドバイス	Webアンケートシステム	企業等の職員	評価に基づき、カリキュラム改革を検討する。	総合IR本部
6	DPIによるカリキュラム点検	随時	3年に 1回	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング、カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	応用理工系学科 科学生指導関係教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	工学部 応用理工系学科

## 工学部 情報エレクトロニクス学科 アセスメント・チェックリスト

## 工学部情報エレクトロニクス学科の学位授与水準(DP)

DP1	情報エレクトロニクスの基礎的な知識の習得とその深い理解
DP2	情報エレクトロニクスの応用技術についての幅広い知識
DP3	革新的な情報エレクトロニクスに係る新技術に対応するための基礎知識
DP4	情報エレクトロニクスの研究開発に必要な優れた分析力と洞察力
DP5	課題に対する科学的考察を的確に遂行できる論理的思考力
DP6	新しい課題を発見するための洞察力と論理的思考力
DP7	情報エレクトロニクスに関する研究課題についての問題発見能力と研究推進力
DP8	情報エレクトロニクスの研究開発に必要な国際的研究動向に関する情報収集力と分析力
DP9	革新的情報エレクトロニクス分野を開拓するために求められる幅広く高度な科学・工学・情報科学における知識とその知識を活用した応用力
DP10	課題解決をチームで実行するためのチームワークとリーダーシップ
DP11	国際的に活躍できる技術者・研究者に必要な高い倫理観
DP12	市民として責任を自覚し、社会の様々な課題に取り組む積極性

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	7月、1月	毎年	2～4年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Webアンケートシステム	学生	結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	工学部
2	成績評価	4月、9月	毎年	2～4年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	情報エレクトロニクス学科学生指導関係教員	成績をもとに履修指導を行う。	工学部 情報エレクトロニクス学科
3	3年次学修状況調査	10～12月	毎年	3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改革の参考とする。	総合IR本部
4	卒業生調査 (OB/OG調査)	9～1月	毎年	卒後5,10,15年目の卒業生	・大学教育の有用性と現在の状況	Webアンケートシステム	卒業生	教職員に開示してカリキュラム改革の参考とする。	総合IR本部
5	企業調査 (就職先調査)	1～3月	3年に1回	卒業生の就職先	・企業等からのアドバイス	Webアンケートシステム	企業等の職員	評価に基づき、カリキュラム改革を検討する。	総合IR本部
6	DPIによるカリキュラム点検	随時	3年に1回	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング、カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	情報エレクトロニクス学科学生指導関係教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	工学部 情報エレクトロニクス学科

## 工学部 機械知能工学科 アセスメント・チェックリスト

## 工学部機械知能工学科の学位授与水準(DP)

DP1	機械工学の基礎となる力・流れ・熱に関する知識の習得とその深い理解
DP2	従来の機械工学の範疇を超えた新領域対応の基礎的知識
DP3	機械システムの開発研究に必要な優れた現象観察力と分析力
DP4	課題に関する科学的考察を的確に遂行できる論理的思考力
DP5	卒業論文研究を通じて修得する課題発見力と研究推進力
DP6	機械システムの研究開発に必要な国際的研究動向に関する情報収集力と分析力
DP7	先端的分野を開拓するために求められる幅広く高度な科学・工学における知識とその知識を活かした応用力
DP8	実験や実習におけるグループ活動を通じて修得するチームワークとリーダーシップ
DP9	国際的に活躍できる技術者・研究者に必要な高い倫理観
DP10	市民として責任を自覚し、社会の様々な課題に取り組む積極性

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	7月, 1月	毎年	2~4年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Webアンケートシステム	学生	結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	工学部
2	成績評価	4月, 9月	毎年	2~4年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	機械知能工学 科学生指導関係教員	成績をもとに履修指導を行う。	工学部 機械知能工学科
3	3年次学修状況調査	10~12月	毎年	3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改革の参考とする。	総合IR本部
4	卒業生調査 (OB/OG調査)	9~1月	毎年	卒業後5,10,15年目の 卒業生	・大学教育の有用性と現在の状況	Webアンケートシステム	卒業生	教職員に開示してカリキュラム改革の参考とする。	総合IR本部
5	企業調査 (就職先調査)	1~3月	3年に 1回	卒業生の就職先	・企業等からのアドバイス	Webアンケートシステム	企業等の職員	評価に基づき、カリキュラム改革を検討する。	総合IR本部
6	DPIによるカリキュラム点検	随時	3年に 1回	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング、カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	機械知能工学 科学生指導関係教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	工学部 機械知能工学科

## 工学部 環境社会工学科 アセスメント・チェックリスト

## 工学部環境社会工学科の学位授与水準(DP)

DP1	多種多様な文化、社会、自然に関する幅広い基礎知識を理解している。
DP2	環境社会工学に関する基礎および専門知識を修得している。
DP3	卒業論文・設計に関する実験や解析を通して、実現象の観察力や解析結果の分析力を身に付けている。
DP4	情報や知識をグローバルな視点から論理的に分析・思考する能力を養い、自分の言葉で他者にわかりやすく表現することができる。
DP5	自ら新たな問題を見出し、その解決に向けて必要な情報を収集・分析することができる。
DP6	問題解決に向けた多方面の解決策を考え、限られた制約条件の中で最適解を導き出すことができる。
DP7	多様化・専門化する工学技術とその社会背景を理解して長期的に社会に貢献を続けるため、知的基盤・社会性を培い、生涯に渡り自己教育・研鑽を行うことができる。
DP8	演習や実験などのグループ活動を通して、コミュニケーション力、協調力、積極力、説得力などを修得し、チームワークやリーダーシップを発揮することができる。
DP9	技術者・研究者としての工学的倫理観を養い、社会で直面する倫理的諸問題に対して適用することができる。
DP10	社会を構成する1人として、責任の自覚と環境に対する高い意識を持ち、環境に配慮しながら社会の様々な課題に適應することができる。
DP11	社会貢献に対する高い関心を持ち、国際的な視点から積極的に関与することができる。

番号	名称	実施時期	周期	対象	内容、質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
1	授業アンケート	7月、1月	毎年	2～4年生	・授業の満足度 ・授業の理解度 ・学習状況	Webアンケートシステム	学生	結果を学内に公表し、教員に教育方法改善の指針を与える。	工学部
2	成績評価	4月、9月	毎年	2～4年生	・成績の点検	履修指導時に点検する	環境社会工学科学生指導関係教員	成績をもとに履修指導を行う。	工学部 環境社会工学科
3	3年次学修状況調査	10～12月	毎年	3年生	・学習状況 ・コンピテンシーの習熟度	Webアンケートシステム	学生	教職員に開示して今後の教育制度改革の参考とする。	総合IR本部
4	卒業生調査 (OB/OG調査)	9～1月	毎年	卒後5,10,15年目の卒業生	・大学教育の有用性と現在の状況	Webアンケートシステム	卒業生	教職員に開示してカリキュラム改革の参考とする。	総合IR本部
5	企業調査 (就職先調査)	1～3月	3年に1回	卒業生の就職先	・企業等からのアドバイス	Webアンケートシステム	企業等の職員	評価に基づき、カリキュラム改革を検討する。	総合IR本部
6	DPによるカリキュラム点検	随時	3年に1回	カリキュラム	・DPを実現できるカリキュラムになっているかの点検	ナンバリング、カリキュラムマップなどによるDPとカリキュラムの相互参照	環境社会工学科学生指導関係教員	DPとカリキュラムのバランスが悪い場合はいずれかを調節する。	工学部 環境社会工学科